

新生・東京都美術館 管理運営の基本的な考え方と事業展開

1. 東京都美術館の基本方針

東京都美術館は、我が国初の公立美術館として1926(大正15)年に開館し、80年余の歴史を有します。2012(平成24)年、大規模改修工事の完了に伴い、新たな変革期を迎えます。

- I. 東京府美術館時代……………1926(大正15)年～
公募展の実施、作品の収集
- II. 新館の開館……………1975(昭和50)年～
自主企画展、教育普及活動の開始、作品の収集
- III. 東京都現代美術館の開館……………1995(平成7)年～
コレクションの移管、大型共催展と公募展の二本柱へ
- IV. 大規模改修によるリニューアル… 2012(平成24)年～

新生・東京都美術館は、「アートへの入口」となることをめざします。展覧会を鑑賞する、子どもが初めて訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害を持つ人が何のためらいもなく来館できる美術館となります。訪れた人が、新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」に出会える場とします。これらを実現することで、東京都美術館を人びとの「心のゆたかさの拠り所」となるようにします。

2. 東京都美術館が担う4つの役割

「アートへの入口」、「創造と共生の場」、「生きる糧としてのアートに出会える場」を実現し、「心のゆたかさの拠り所」をめざすために、新生・東京都美術館は4つの役割を担っていきます。

① 人びとの交流の場となり、新しい価値観を生み出す美術館

鑑賞者とつくり手が一体となって、新たな表現活動の土壌と価値観を創造できるよう、豊かな芸術環境を提供していきます。

② 芸術活動を活性化させ、鑑賞の体験を深める美術館

さまざまな団体や作家と協力して、能力に満ちあふれたつくり手を支える事業を展開していきます。また鑑賞者が美術作品をより深く享受できるよう努めます。

③ 伝統を重視し、新しい息吹との融合を促す美術館

伝統と新しい感性との出会いを促す役割を担います。そして、新旧取り合わせの中から、美にあふれたライフスタイルを提案します。

④ 世界と日本の名品に出会える美術館

首都東京にふさわしい魅力的な展覧会を開催し、国内外の優れた作品を鑑賞する場を提供していきます。また日本人の現存作家の仕事に光を当て、幅広く紹介する場を設けます。

3. 事業実施にあたっての基本姿勢

館運営・事業の実施にあたっては、以下の3つのことを追求していきます。

① 社会への貢献 《ミッション》

使命を果たすことにより、社会に貢献する。

② 他の団体・機関との協力 《コラボレーション》

コーディネーターとしてさまざまなアーティスト、団体、地域と連携協力する。

③ 当館ならではの独自性 《オリジナリティ》

80年余の歴史をふまえ、当館独自の多彩な取組を実現する。

4. 基本的な事業展開

新生・東京都美術館の基本方針のもと、「4つの役割」を果たすため、4つの事業に取り組めます。

